

説教題：「**生きている者の神**」

聖書箇所：ルカによる福音書20章27 - 40節

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 31 交読詩編：詩編105編1 - 11節 (115頁)

讚美歌：83/457 (神はわが力) /224 (われらの神 くすしき主よ) /78 (わが主よ、ここに集い) /27

「今週の聖句」 〔神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。〕 (ルカ伝20：38)

「牧師室の窓」 「震災に高層ビルは左右振れ死を覚悟せし彼(か)の三月に」

「震災の弥生に生(お)うる草花の淡き緑は命の徴(しるし)」

(1)皆様おはようございます。3月もあと半月になりました。卒業式の時期ですね。皆様は卒業式としてどのような思い出がありますでしょうか。私の思い出は、小学校の校長先生が、食事はよく噛んで食べなさい、よく噛めば食べ物の量が少なくてもお腹を満たすことができる、栄養を摂ることができる、と教えてくれました。裏返して言えば、工夫をすれば、道が開けると教えてくれたのです。中学校では数年前まで分校でした。土曜日の午後は、屋外での土運びなどの作業がありました。その作業中に漢詩や英語を大きな声をあげて暗唱させられました。

のちに就職して、仕事で中国大使館に出入りしました。中国の歴代王朝の名前を暗記しており、漢詩を知っていることで、顔馴染みになりました。まさに「仰げば尊し、わが師の恩」ですね。大学を卒業する時に、小学校や中学校宛てに、お世話になりありがとうございましたとお礼の葉書を出しましたら、返事をいただきました。就職して、つらい時があっても挫(くじ)けない様にと書いてありました。嬉しかったですね。お守りの様でもあり、新社会人には大きな励ましました。聖書の御言葉は、きょうの聖書の御言葉もそうですが、私たちに生きる力を与えてくれる、挫けても立ち上がる力を与えてくれる言葉だと思います。

(2)きょうの聖書箇所は小見出しに「復活についての問答」と書かれています。どのような場面なのかを確認してみましょう。

まず第1に、登場人物は「サドカイ派の人々」と「律法学者」です。「サドカイ派」と言うのは、聖書の後ろに書かれている「用語解説」を見ますと、「ファリサイ派とともにイエス時代のユダヤ教の2大勢力の一つで、祭司や上流階級を代表していた。律法の解釈や生活の実践の面でファリサイ派と対立していた。…霊や天使や復活を否定したといわれる。…」と書かれています。一方で、「ファリサイ派」とは、「ユダヤ教の一派。…イエス時代にはサドカイ派と並んで民衆に大きな影響力を持っていた。律法学者は…ファリサイ派に属していたと思われ…律法を守ること、特に安息日や断食、施しを行なうことや宗教的な清めを強調した。…」と書かれています。この解説にも書かれている様に、「サドカイ派」は「霊や天使や復活を否定した」、片や「ファリサイ派」や「律法学者」は「霊や天使や復活を否定」していないようです。

続いて、第2に、時期は過越しの祭が行なわれる数日前、とすることは、イエス様の十字架での死があり、復活される数日前の出来事です。今日の聖書箇所の復活と言うテーマについての論争が、イエス・キリストの復活の事実によって証明される、謂わば、前触れ、前奏曲として位置づけられています。

(3)きょうの聖書の直前に書かれている「皇帝への税金：皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」という論争のきっかけは、20章20節に書かれている様に「イエスの言葉じりをとらえ」て始まりましたが、本日の論争は「復活」という重要なテーマについての論争です。27節には「サドカイ派の人々が何人か近寄って来て」と書かれています。イエス様との論争に備えて、入念に準備

していたのです。イエス様はルカ伝の7章で若者を生き返らせ、8章ではヤイロの娘を生き返らせています。このヤイロの娘の話はきょうの礼拝後の教会学校の絵本読み聞かせの箇所です。死者が生き返ることなど馬鹿馬鹿しい、ましてや教会学校の教材にするなどとんでもないと考えられる人もおられるでしょう。教会や教会学校では科学や技術の知識を教えているではありません。人は神のもとでどの様に生きるべきか、喜びや悩みや苦しみの中で、どの様に祈り、考え、決断すべきかを学んでいるのです。

人間は体力が乏しい時や、精神的に圧迫されている時には、適切な判断をすることが難しくなります。その様な時に、神との会話、即ち、祈りと言う、一種の通信手段を普段から備えていれば、困難から脱出し克服することができるのです。マタイ伝の25章に10人のおとめの話が書かれています。ランプの油が不足した時のために、予備の油を入れた壺を持っているかないかによって、人間の運命は大きく変わります。油と言う物質や金銭の準備を言っているではありません。判断力や将来を見通す力は、小学生の年齢であっても、神との会話、祈りによって少しずつ僅かながら積み重なっていくのです。その効果は、アヒルの水面下での水かきの様に、見えない所での行動によって実現します。

(4)28節～32節を見てみましょう。28節の〔(20:28)「先生、モーセはわたしたちのために書いています。『ある人の兄が妻をめとり、子がなくて死んだ場合、その弟は兄嫁と結婚して、兄の跡継ぎをもうけねばならない』と。〕このことは旧約聖書の申命記25章5節以下に書かれています。この様な当時の婚姻制度は「レビラート婚(レビレート婚)」と呼ばれています。レビラート婚はこの申命記25章が記している様に、家長(家の長、おさ)制度が存在し、家名(家の名前)が存続することを重視する社会制度です。加えて、夫を失って、寡婦となった女性の生存を保護する社会保障制度でもあります。この制度の背景として、家単位での資産の相続制度が存在していたことを示しています。

社会の中で窮地に置かれた女性の救済方法を「復活」の否定に関連させた、難しい問題をイエス様に示したのです。併し、これは問題を複雑にして、相手を混乱させるつもりが、自分たちを混乱させてしまうのです。直前の聖書箇所には、ローマ皇帝に税金を払っている当の本人たちが、皇帝への税金納付が律法に適っているかないか、という可笑(おか)しな質問をイエス様に投げかけたのです。物事の本質を確認する場合には、変化球を投げてはなりません。自滅するだけです。

(5)話を続けます。サドカイ派の人々の質問は屋上屋を重ねます。31節32節です。〔(20:31)「次々にこの女を妻にしましたが、七人とも同じように子供を残さないで死にました。(20:32)最後にその女も死にました。〕続いて、33節〔(20:33)すると復活の時、その女はだれの妻になるのでしょうか。七人ともその女を妻にしたのです。〕サドカイ派の人々は、イエス様が身動きも答えることも出来ないだろうと思つての質問でした。併し、ここに落とし穴があります。抑々(そもそも)、「復活」を否定しているサドカイ派の人々自身が、応えることの出来ない「復活の時」について質問しているのですから、事前に想定問答の予想もしないで、無責任な行動をしてしまったのです。

よく考えると、私たちの身の回りには、もっともらしい様に見えて隙間だらけの行動や無責任な行動を見ることができます。オレオレ詐欺、振り込め詐欺もそうですが、最近の国際政治・国際経済状況でも、見かけることができます。ある国が一定の政策もなしで、貿易の関税を引き上げれば、結局は自国の国民に不利益が降り掛かって来てしまいます。

もしも、仮にですが、復活を否定していないファリサイ派や律法学者ならば何と答えられたでしょうか。推測ですが、現実的な解決方法としては、長男から七男までに順番に、順番に答えさ

せていくことでしょう。神の真意と称して引く籤(くじ)引きで、或いは、順番通りに聞いてみると答えるでしょう。併し、そこには神の人間への愛情は出てはこないのです。

(6) サドカイ派の人々の質問が中途半端であることを見抜かれたイエス様は何と答えられましたでしょうか。34節～36節です。〔(20:34)イエスは言われた。「この世の子らはめとったり嫁いだりするが、(20:35)次の世に入って死者の中から復活するのにふさわしいとされた人々は、めとることも嫁ぐこともない。(20:36)この人たちは、もはや死ぬことがない。天使に等しい者であり、復活にあずかる者として、神の子だからである。〕 思いもよらない言葉をイエス様は答えられたのです。

イエス様が示された「復活」とは、死者が生き返ると言う奇跡ではありません。この世が終わる「終末」の後に来る「神の国」にて生きることです。

「復活」とは「永遠の命」と置き換えることができます。このイエス様の言葉を図に書くと分かり易いです。私は次の様に考えました。ご参考にして下されば幸いです。まずは、四角を書いて縦横に線を引き四等分します。縦軸に地上の命・復活の命と分けし、横軸に人の愛・神の愛と分けします。すると、地上の命に生きる人々に神の愛が注がれると、人間は正しく生きようとなります。人は死を迎えて、神の愛が注がれる復活の命に生きる人は「もはや死ぬことがない。天使に等しい者、神の子」となり、この世の社会制度とは異なる世界であり、結婚することはないのです。逆に言えば、この地上においては、人間は神の恵みによって、一人の人間として、責任ある行動を行なうことが求められているのです。

(7) 続きまして37節は旧約聖書の出エジプト記3章6節を指しています(96ページ)。神はモーセをホレブ山に導き、モーセの先祖である「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と自己紹介をしています。と言うことは即ち、生きていたあなたモーセ自身の神でもあると強調しています。出エジプト記3章11節で「わたしは何者でしょう」と、自分の為すべき人生に悩むモーセに対して、12節で神はモーセに「わたしは必ずあなたと共にいる。」と励ましています。このことを、今日の聖書箇所20章38節はキリストの言葉として伝えてあります。〔(20:38)神は死んだ者の神ではなく、生きていた者の神なのだ。すべての人は、神によって生きていたからである。〕

ここに至って「復活」と言うテーマ・主題が「この世でいかに生きるのか」と言うテーマに戻ってきました。つまり、「地上の命」と「復活」とは一体・不可分であり、それは「神の愛」によって「生きている」、結ばれているのです。

この38節の御言葉は私たちが人生の中で疲れ果てている時に勇気を与えてくれるでしょう。「生きている者の神、人は、神によって生きている」、私たちは神によって支えられているのです。

・・・お祈りします。

イエス・キリストの主なる神様。私たちは、受難節・レントの期間を過ごしています。キリストが歩まれた道に思いを馳せて、神の恵みに感謝して日々を過ごしたいと願っています。辛い時に勇気をお与え下さいます様に、私たちの信仰を導いて下さいますようお願いいたします。東北地方での大規模な山林火災は収まりました。ありがとうございます。被災者が困難を克服出来るように、平安をお与え下さい。

東日本大震災から14年が経過し、尚、困難の中にある人々に平安がありますように。この地球上で戦争の只中にある人々に平和が実現しますように。神の被造物である人間は、互いに、平和に生きることを実現しなければなりません。私たちに知恵と勇気をお与え下さい。

教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 **アーメン**

【参考図】

